

長野県埋蔵文化財センター ニュース

みすずかる

平成 17 年 8 月 31 日 発行

県南の丘陵に広がる旧石器文化 竹佐中原遺跡



竹佐中原遺跡 C 地点



まとめてみつけた礫

発掘調査情報



川久保遺跡 替佐地区千曲川築堤工事関連
千田遺跡

矢出川遺跡群 畑地帯総合整備事業野辺山地区幹線7号拡幅工事関連

竹佐中原遺跡 中央自動車道飯田南ジャンクション建設事業関連

たけさなかはら

竹佐中原遺跡 飯田市竹佐

2001年からの調査で、三ヶ所の石器集中区が確認され、発見順にA地点・B地点・C地点とし、今年はC地点の発掘調査をしています。A地点とC地点の石器は後期旧石器時代より古い可能性がある石器として、注目されています。

C地点では、地表下約60cmから、8月24日現在、石器と礫など330点の遺物が見つかっています。これらは、8×9mの範囲に出土

しており、その中に拳大の石器と礫が集中する場所(礫群)が2ヶ所発見され、礫群と同じ面から、作業台と考えられる大きな平石(写真右上)も出土しました。これらの遺物が出土した面が、旧石器時代の地表面を示していると考えられます。



C地点から発見された石器

旧石器時代の礫群は、焼けた礫がまとまって出土するもので、焼いた石を熱源として、料理をしたものと考えられています。しかしながら、C地点の礫群には火を受けた痕跡を今のところ確認することができません。また、礫群の中に加工がある石器も含まれており、旧石器時代に一般的に見られる礫群とは様子が異なっています。今後、解明していく大きな課題のひとつです。

(鶴田典昭)

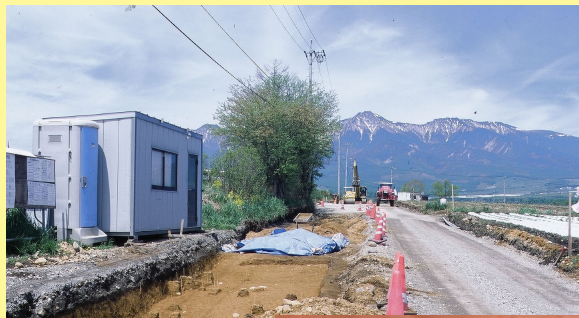
やでがわ

矢出川遺跡

南牧村野辺山

国史跡（矢出川Ⅰ遺跡）から南へ約1kmの地点において、道路拡幅工事に伴う発掘調査を行いました。

旧石器時代のうち、2万年くらい前までさかのぼる石器や、石器を作った時の石くずが見つかりました。しかし、形の整った石器がわずかしかかないこと、細かな加工の時に出る石くずもないことから、この場所では、石をあら割りしただけのようです。ここに立ち寄った旧石器人たちは、石器に使いそうな材料だけを持って、もう少し住み心地のよい所へ移っていったのでしょうか。（寺内隆夫）



石器出土地点と八ヶ岳



出土した石器の材料

せんた

千田遺跡

中野市豊津

千田遺跡は、斑尾川が千曲川に合流する地点の右岸にあり千曲川に面した縄文時代から中世の集落跡です。現在、縄文時代中期中頃のムラから、竪穴住居跡、列石や直径が2.5mもある木の実貯蔵穴などが見つっています。列石は大きな石を長さ2～4mにわたって置いたもので、後の環状列石などを考える上で、重要な資料になると考えられます。斜面からは多量の土器や石器が見つっていますが、縄文土器は新潟県の特徴をもち、10点以上の土偶も見られます。また、弥生時代後期の住居跡が6軒、その中には多量の土器が投げ込まれた住居跡もありました。他にも、魚網の石錘（石製のおもり）が残ったままの古墳時代後期の住居跡2軒も見つっています。（綿田弘実）



右足と胴体だけの土偶

かわくぼ

川久保遺跡

中野市豊津

川久保遺跡は、千田遺跡と斑尾川を挟んだ対岸に位置します。遺跡は千曲川がすぐ目の前を流れ、洪水に遭いやすい場所ではありますが、昨年の調査では弥生時代以後の水田跡や住居跡などさまざまな時期の生活跡が見つっています。本年は、昨年の調査地点に隣接した斑尾川沿いの場所を発掘しており、現在、上層の江戸時代頃の水田跡や屋敷跡の調査が終了しています。たび重なる洪水土の堆積によって地形が変化するなかで、水回し方法を変えたり、改修を加えたりしながら水田をつくり続けたようすがわかります。今後は下層の古代・古墳時代の遺構調査に進む予定です。（市川隆之）



江戸時代の屋敷跡と水田の跡

展示会から

『縄文トーク』

伊那文化会館



「長野県の遺跡発掘 2004」を、長野県伊那文化会館で開催しました。会期中は考古学ファンが多く集まり、熱心に見学する姿が見られました。この速報展に合わせて、7月30日に遺跡報告会と『縄文トーク』を行いました。今回新たに企画された『縄文トーク』では、「八ヶ岳西麓の縄文文化」と題して、司会に樋口昇一氏、パネラーとして茅野市教育



委員会の守矢昌文・小池岳史両氏、当センターの寺内・柳沢調査研究員が出席して、トークディスカッションを行いました。冒頭、宮坂英弐氏によって昭和30年代に発掘された有孔罎付土器（尖石縄文考古館蔵）の欠けている部分に、^{ながみね ひじりいし}長峯・聖石遺跡の調査（平成10～12年）で見つかった土器の破片が、ぴったりと入る様子が披露され、40年ぶりの土器の再会に、すぐ近くで食い入るように見ていた会場の皆さんからは、驚きの声が上がりました。その後、長峯・聖石遺跡の発掘調査で見つかった他地域の土器や黒曜石、ヒスイ・琥珀などからわかる縄文時代中期の交流・交易や集落の様子について語り合われ、八ヶ岳西麓の縄文文化について、最新の発掘調査の成果を踏まえながらも、わかりやすい語り口に、100名を超える参加者たちは、熱心に聴き入っていました。（土屋哲樹）



埋文告知板

長野県埋蔵文化財センター

< 遺跡発掘 2005 >

今後の発掘調査予定



^{にしいちりづか} 西一里塚遺跡（佐久市岩村田・平塚）	～ 11月
^{ちからいしじょうり} 力石条里遺跡群（千曲市上山田）	～ 11月
^{ひびしじょう} 東條遺跡（千曲市八幡）	～ 11月
^{みなみぞみね} 南首峯遺跡（長野市豊野）	9～ 11月
^{かわくぼ} 川久保遺跡（中野市豊津）	～ 11月
^{せんた} 千田遺跡（中野市豊津）	～ 11月
^{おもてまち} 表町遺跡（牟礼村牟礼）	～ 11月
^{みしやぐうじ} 御社宮司遺跡（茅野市宮川）	～ 9月
^{かまいあみだどう} 構井阿弥陀堂遺跡（茅野市ちの）	～ 11月
^{こまがた} 駒形遺跡（茅野市米沢）	8～ 9月
^{ひがしたかとおぶげやしきち} 東高遠武家屋敷地（高遠町東高遠）	9～ 11月
^{かわじだいみょうじんぼら} 川路大明神原遺跡（飯田市川路）	～ 11月

（以上予定）

詳しい場所についてはセンターにお問い合わせください。

また、現地説明会のご案内や、調査状況など、長野県埋蔵文化財センターホームページに随時掲載しておりますので、こちらをご覧ください。

<http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>

野帳 4月。雪が舞う野辺山高原から始まった今年度の発掘調査は、現在、長野県の南北12遺跡で展開しています。竹佐中原遺跡C地点の石器群や礫群は地元紙にも取り上げられた上、遺跡見学会でも県内外から多くの方々が来跡され、いくつかの課題も提示していただきました。各遺跡でもそれぞれの遺跡が持つ課題を明確にしなが、いにしえの人々の生活の痕跡を記録保存する発掘調査は続きます。（小林秀行）

(財) 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007

長野市篠ノ井布施高田963-4

TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157

E-mail maibun@grn.janis.or.jp

HP <http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>